

VVVVVVVVVVVVV

## 巻 頭 言

^^^^^^^^^^^^^^



茨城県町村会会長

野 口

一

第11回国勢調査が、来る10月1日実施されることになった。あたかも本年は、1920年（大正9年）の第1回調査から数えて、実に50年目、戦後25年目にあたり、まことに意義深いものがある。殊に、今回は「1970年世界人口センサス」の一環として、また、1972年に本土復帰が決定している沖縄においても、戦後初めて本土と一体化して実施されることは、その意義をいつそう深いものとしている。

計画から実査、製表、報告書の刊行までおよそ5年の歳月を要するというこの国勢調査は、正確さと同時に、そのほとんどが地味で根気強さを要求される大事業であり、この業務に携わつてこられた多数の統計関係者のなみなみならぬご尽力、ご苦勞に対して、改めて、深基なる敬意を表し、心から感謝申し上げる次第である。どうか今回の国勢調査も成功裡に終了することができるよう、いつそのご尽力をお願い申し上げますと同時に、われわれ町村長としても一体となつて、可能な限り努力、協力してまいることをお誓いするものである。

さて、戦後わが国は、産業、経済、教育、文化等あらゆる面において、著しい発展を遂げ、社会構造に未曾有の一大変革をもたらしたが、反面、これに伴つて各種の深刻な歪みをも現出させている。

例えば、人口の都市集中化は大都市における過密化現象を生み、一方、急激な人口減少に伴う農山漁村では過疎問題がいつそう深刻化している。また、公害問題は、日本だけではなく、世界の多くの先進国にとつても重大な社会問題となつているが、わが国においては、経済成長の進む中で企業活動が野放し的狀態にされ、公害対策が軽視されてきたため、極めて深刻な段階に達している。さらに、交通事故問題は、今年7月7日現在ですでに死者が8,000人を突破し、このままのペースで進めば年末までには、交通戦争史上最悪だつた昨年の年間死者16,257人を上回る18,000人前後、死傷者を含めると1,000,000人を越すであろうと推測されており、まことに憂慮すべき事態にたち至つている。物価の急騰もまた深刻な問題であり、国民の生活は圧迫されつつある。

国は現在、このように各般にわたつて現出した弊害を是正すべく、各種の施策を講じているところであるが、これら対策の第一歩は申すまでもなく、その実態を適確、詳細に把握することにある。統計はその意味において、難問題解決の礎となるものであり、その果たす役割は極めて重要であるといわねばならない。なかんずく、国勢調査は、この統計の中核をなし、最も大規模かつ基本的な統計調査であり、国や地方自治体はもとより、企業から個人に至るまで、すべての分野で広く利用されており、とくに情報化時代といわれ、ますます複雑化する世代を迎えて、これに対する期待と需要は増大している。

本県は、首都圏圏域に位置し、鹿島開発をはじめとする地域開発を強力に推し進め、先進県への飛躍を図りつつあり、現在県勢は急速に変貌しているが、今回の国勢調査により、その実態が詳細に把握でき、本県の各種行政施策のうえから、重要な役割を果たしてくれるものと大いに期待しているところである。大方のご協力を切にお願いする次第である。